

董大に別る

高

適

十里黄雲白日曛し

北風雁を吹いて雪紛紛

愁るる莫前路知己無

天下誰人が君を識らん

【作者】高適(七〇二?から七六五年)盛唐の詩人、字は達夫(たつぶ)また仲武(ちゆうぶ)、山東省滨州(ひんしゅう)の人。若い頃不遇で貧しく、七四年杜甫、李白と相識り、年五十歳ごろから詩を作りはじめた。辺塞詩人として有名。豪壮にして節義を重んじた性格を反映して、詩にも気骨があり重厚である。「高常侍集(こうじょうじしゅう)」十巻がある。

【語釈】*董 大…董庭蘭(とうていらん)のことで、当時の琴の名手であった。 白日曛…光が暗くなる様子。 *紛紛…盛んに入り乱れるさま。

【通釈】見渡す限り黄色がかつたたそがれの雲が垂れこめ、太陽の光さえもうす暗い。北風は空ゆく雁の群れを吹き送り、雪まで紛紛と降りしきる。このような夕べ、君は別れて遠くに旅するのであるが、董大よ、君の行く先に親友がいななどと心配しなさんな。天下に琴の名手である君の名を知らない人は、誰一人としていないのだから。